

2016. 12

(主な内容)

○第 2 回「諸外国における対日メディア世論調査」結果の概要.....	1
○「第 24 回人気スポーツ調査」結果の概要.....	8
○告知板.....	10

中央調査報

第 2 回「諸外国における対日メディア世論調査」 結果の概要

公益財団法人新聞通信調査会(理事長 長谷川和明)は、2016年1月、アメリカ・イギリス・フランス・中国・韓国・タイの6カ国を対象に「諸外国における対日メディア世論調査」を昨年に続いて実施しました。調査は中国、タイは面接法、他国は電話法で行い、各国とも約1,000人から回答を得ました。回答者の性別・年代別構成は各国の人口構成に近い比率に割り当てられています。

設問は各国共通の全14問で、調査を実施した全ての国で漏れなく回答を得ることができました。具体的な質問項目は大きく分けて、①各国新聞の信頼度評価、新聞とインターネットとの役割比較、テロ報道や報道の自由に対する評価 ②日本のメディア認知状況、日本に関する情報源や期待する報道、訪日経験・意向 ③調査対象国相互の好感度、日本への信頼感 ④日本と聞いて思い浮かべること——の全4分野です。上記①～③はあらかじめ設定した選択肢から選んでもらい、④は具体的な事柄を挙げてもらいました。また、当調査で設定した質問のうちの幾つかは、当調査会が毎年夏季に日本全国で実施している「メディアに関する全国世論調査」でも聞いています。該当質問では直近調査(2015年9月実施)の結果を図表内に表記しているので適宜参照してください。ただし、「諸外国における対日メディア調査」と数値を比較する際には、調査手法や全体的な質問構成が異なることに留意する必要があります。調査結果の概要は以下の通りです。

1. 新聞の情報信頼度評価

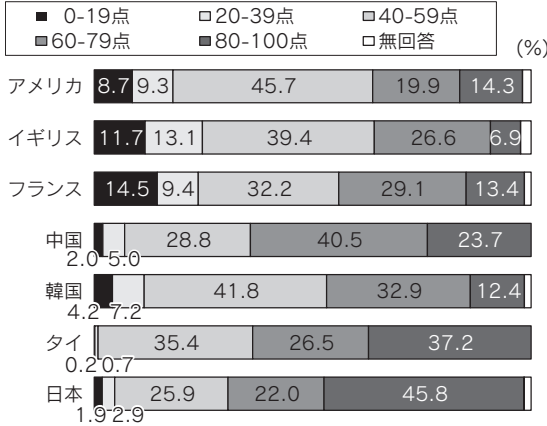
—タイが67.2点で最高。

まず各国の新聞情報信頼度、新聞とインターネットとの役割比較に関する結果から見てみよう。最初は新聞の情報信頼度評価である。これは全面的に信頼している場合は100点、全く信頼していない場合は0点、普通の場合は50点として点数を付けてもらった。ただしアメリカのみは、現地調査機関の提言に従い0～10点で質問したので、集計時に回答数値を10倍した。結果の平均値で比較すると、タイが最も高く67.2点、以下、中国65.2点、韓国56.2点、アメリカ55.7点、フランス51.7点、イギリス51.2点

と続く。全般的に欧米諸国よりアジア諸国の方が高くなっており、昨年とほぼ同様の傾向となっている。当質問は前述の日本国内で実施した「メディアに関する全国世論調査」でも聞いており、その結果は69.4点であった(図表1)。

では「新聞の将来の役割」はどうであろうか。これは「A. インターネットなどの普及により新聞の役割が小さくなっていく(役割減少派)」と「B. 今まで通り、新聞が報道に果たす役割は大きい(役割維持派)」という2つの意見のどちらに賛成するかを聞いたものである。結果を見ると、全ての国で役割減少派が役割維持派を上回り、イギリス以外の5カ国では役割減少

図表1 新聞の情報信頼度



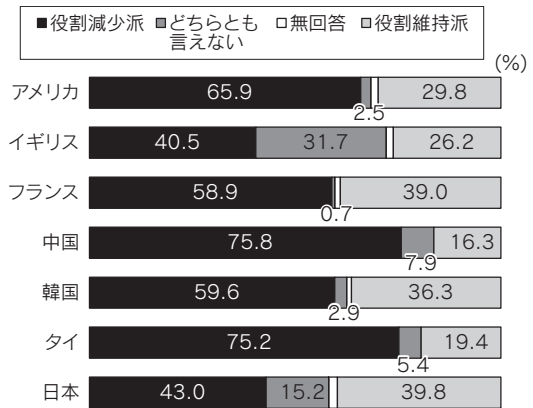
平均点	
今回	前回
55.7	54.5
51.2	50.4
51.7	53.7
65.2	*
56.2	55.9
67.2	65.6
69.4	69.2

注1：アメリカは0点～10点で質問したため、回答の数値を10倍した。
 注2：「第8回メディアに関する全国世論調査（2015年）」は2015年9月に全国18歳以上の5,000人を対象に訪問留置法で行い3,183人（有効回収率63.7%）から回答を得た。

派が過半数を占めている。特に、中国とタイでは役割減少派（順に75.8%、75.2%）が役割維持派（同じく16.3%、19.4%）を50ポイント超上回っている。その一方、フランスと韓国では役割維持派が順に39.0%、36.3%と他国より高い比率となっており、日本もこの2国とほぼ同様の水準である（図表2）。

次にテロ報道やテロ情報に関してメディア別の信頼感を見てみよう。アメリカ・イギリス・フランスでは「新聞」「テレビ」「ラジオ」の3メディアが上位に並び、中国・韓国・タイは「テレビ」「新聞」の順に信頼感が高い。中国とタイでは「インターネットのニュースサイト」が3位に入っている。「SNS（facebook, twitterなど）」は総じて低い評価で、韓国を除き最下位となっている。近年アラブ諸国などで「民主

図表2 将来の新聞の役割



【参考：第8回メディアに関する全国世論調査（2015年）より】
 注：「第8回メディアに関する全国世論調査（2015年）」は2015年9月に全国18歳以上の5,000人を対象に訪問留置法で行い3,183人（有効回収率63.7%）から回答を得た。

図表3 テロ報道やテロ情報の信頼性

	1位	2位	3位	4位	5位	6位
アメリカ	新聞 74.3	テレビ 71.9	ラジオ 71.0	インターネットの ニュースサイト 62.4	雑誌 57.9	SNS(facebook, twitterなど) 32.4
イギリス	テレビ 82.7	ラジオ 77.8	新聞 68.3	インターネットの ニュースサイト 62.0	雑誌 53.5	SNS(facebook, twitterなど) 28.4
フランス	ラジオ 65.1	新聞 63.6	テレビ 58.4	雑誌 53.4	インターネットの ニュースサイト 45.7	SNS(facebook, twitterなど) 18.9
中国	テレビ 87.4	新聞 81.6	インターネットの ニュースサイト 78.2	ラジオ 74.3	雑誌 63.4	SNS(facebook, twitterなど) 56.5
韓国	テレビ 80.1	新聞 73.8	ラジオ 64.0	インターネットの ニュースサイト 63.1	SNS(facebook, twitterなど) 40.3	雑誌 36.5
タイ	テレビ 95.1	新聞 85.6	インターネットの ニュースサイト 71.9	雑誌 71.6	ラジオ 68.4	SNS(facebook, twitterなど) 61.3

化革命」が発生した際に、「SNS」の果たした役割がクローズアップされたが、報道や情報入手の信頼できる媒体としては低い評価にとどまっている、ということであろうか（図表3）。

2. 「報道の自由」に関する意識

一 「報道への圧力」は日本と大きな意識差。

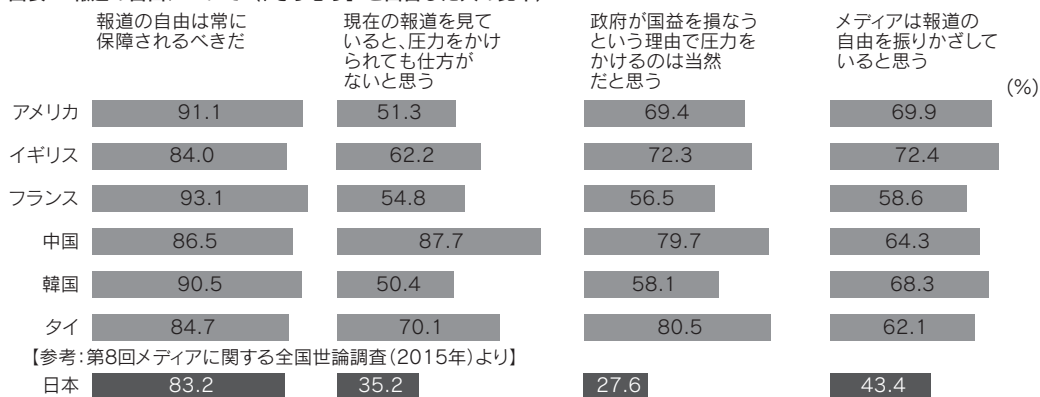
「報道の自由」に関する意識は国ごとに大きな差が出ており非常に興味深い。まず「報道の自由は常に保障されるべきだ」は、「そう思う」がアメリカ・フランス・韓国で90%を超え、イギリス・中国・タイで80%台となっているが、日本を含め各国の差は小さい。「現在の報道を見てみると、圧力をかけられても仕方がないと思う」については、中国でほぼ90%、続くタイが70%、アメリカ・イギリス・フランス・韓国で50～60%台となっている。「政府が国益を損なうという理由でメディアに圧力をかけるのは当然だと思うか」は、中国・タイで約80%、アメリカ・イギリスで70%前後、フランス・韓国で60%弱である。「メディアは報道の自由を振りかざしていると思うか」は、アメリカ・イギリス・韓国で70%前後、フランス・中国・タイで60%前後である。ここで興味深いのは、海外6カ国と日本との意識差である。前述のとおり調査手法や設計の相違に注意しなければならないが、報道に対する何らかの規制や圧力は認められて然るべきだと考えている人が日本ではかなり少ないことを示している（図表4）。

次に、日本のメディアの認知度を見てみる。ここは昨年と同様、「NHK（ワールドTV、ラジオジャパンなど）、共同通信社、時事通信社、日本の新聞（朝日、毎日、読売、日経、産経など）」の中から知っているものを全て挙げてもらった。メディア別の認知状況で見ると、全ての国で「NHK」が最も高く、「日本の新聞」が次いでいる。

国別で見ると認知率の高さは韓国が突出しており、具体的には「NHK」が76.5%、「日本の新聞」が70.6%となっている。同国では「知っているものはない」は6.8%と1割に満たず、良くも悪くも韓国国民の日本のメディアに対する関心度の高さを捉える。韓国では慰安婦問題など日本に関する報道の多さが大きく影響しているであろう。他国について見ると、認知率の高さは中国が韓国に次いでおり、「NHK」、「日本の新聞」は半数に近い。他の国は「知っているものはない」が大多数を占め、アメリカが88.8%、以下、イギリス80.0%、フランス73.2%、タイ50.7%となっている。

では、日本のことが報道されると関心を持つのだろうか。関心層（「とても関心がある」と「やや関心がある」の合計）は全ての国で過半数を占めており、タイの84.2%が最も高い。関心層の内訳を見ると、積極層である「とても関心がある」は比率の高いアメリカ、韓国でも20%程度にとどまっており、消極層の「やや関心がある」の方がはるかに多い。この傾向はタイで特

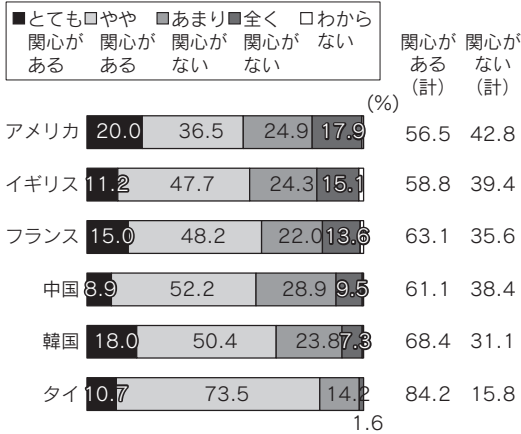
図表4 報道の自由について（「そう思う」と回答した人の比率）



注：「第8回メディアに関する全国世論調査（2015年）」は2015年9月に全国18歳以上の5,000人を対象に訪問留置法で行い、3,183人（有効回収率63.7%）から回答を得た。

に顕著である（図表5）。

図表5 日本のことが報道されると関心を持つか



3. 日本に関する情報入手と報道への要望

—日本に関する情報源「自国のテレビ、新聞、雑誌」。

日本についての知識や情報の入手先は何であろうか。これは全ての国で「自国のテレビ、新聞、雑誌」が1位、「インターネット」が2位となった。3位にはフランスを除いて「自分の家族や親戚、知人」が挙げられており、以下「学校教育」「日本人の友人、知人」などが続いている。フランスでは「学校教育」が3位、韓国では「訪日経験」が4位となっている。中国では、1位の「自国のテレビ、新聞、雑誌」（77.5%）と2位の「インターネット」（75.3%）との差はごくわずかである（図表6）。

【注：この質問では当てはまるものを幾つでも答えてもらった。以下、「複数回答」と表記。この複数回答質問は国民性および調査環境の差によるものと思われるが、回答比率に大きな差が見られる。従って、各国比較は比率ではなく回答順位をベースに記述する。この点も、複数回答質問では以下同様である。】

日本に関する報道で、各国民が日本のメディアに期待する内容を挙げてもらったところ、「科学技術」が上位である点は共通しているが、それ以外の項目は国によって差異が出た。1位はタイを除く5カ国で「科学技術」が、タイでは「観光」が挙げられた。2位には、アメリカ・イギリス・韓国は「国際協力、平和維持活動」、フランスは「歴史と文化」、中国は「ファッション、アニメ、音楽」、タイは「科学技術」「生活様式、食文化」となっている。中国を除き、総じて「ファッション、アニメ、音楽」への関心は低いようである（図表7）。

4. 訪日について

—韓国では半数が「訪日経験あり」。

実際の訪日経験はどうだろうか。これまでに訪日経験がある人は韓国で49.2%と突出しており、アメリカと中国（順に13.1%、11.6%）で10%を超えているが、イギリス・フランス・

図表6 日本に関する情報の入手先（複数回答）

(%)

	1位	2位	3位	4位	5位	6位
アメリカ	自国のテレビ、新聞、雑誌 41.9(40.3)	インターネット 20.7(20.6)	自分の家族や親戚、知人 19.2(22.5)	学校教育 15.4(18.3)	日本人の友人、知人 15.1(17.1)	訪日経験 9.0(7.8)
イギリス	自国のテレビ、新聞、雑誌 78.7(76.4)	インターネット 44.3(41.7)	自分の家族や親戚、知人 28.7(20.9)	学校教育 28.6(21.7)	日本人の友人、知人 15.2(13.0)	訪日経験 5.7(6.6)
フランス	自国のテレビ、新聞、雑誌 87.7(87.4)	インターネット 50.1(46.4)	学校教育 41.7(41.1)	自分の家族や親戚、知人 38.9(31.7)	日本人の友人、知人 18.9(14.7)	訪日経験 4.0(4.6)
中国	自国のテレビ、新聞、雑誌 77.5	インターネット 75.3	自分の家族や親戚、知人 29.4	学校教育 27.4	日本人の友人、知人 14.9	訪日経験 11.6
韓国	自国のテレビ、新聞、雑誌 74.6(66.8)	インターネット 44.2(43.2)	自分の家族や親戚、知人 12.9(10.7)	訪日経験 11.4(9.3)	学校教育 11.3(6.1)	日本人の友人、知人 9.4(5.8)
タイ	自国のテレビ、新聞、雑誌 95.1(94.2)	インターネット 43.6(43.7)	自分の家族や親戚、知人 42.2(31.5)	日本人の友人、知人 6.8(6.5)	学校教育 1.9(5.8)	訪日経験 1.5(2.5)

注：()内は前回調査結果

タイではいずれも10%未満である。中でもタイは2.2%にとどまっており、訪日経験者の少なさが、前問(=日本に関する報道で期待するもの)で「観光」がトップとなったこととつながっているのかもしれない。

では、実際に行ってみたいところ、体験してみたいことを複数回答で聞いてみた。まず行ってみたいところは、全ての国で「東京」が1位、2位には韓国を除き「富士山」が挙げられている。韓国では「北海道」が2位。3位はアメリカ・韓国で「九州・沖縄」、イギリスで「京都、奈良」、フランス・中国・タイで「北海道」となっている。「東京ディズニーリゾート、ユニバーサルスタジオジャパン」は総じて順位が低い。

体験したいことはどうだろうか。1位は韓国を除く5カ国で「京都など日本の文化と歴史のある街を観光する」、韓国は「温泉に入る」となっている。2位には全ての国で「日本食を食べる」(注：中国は同率の1位)が入った。なお、「買い物をする」はアメリカの3位が最高位で、それ以外の国では4位～5位である(図表8)。

5. 日本に対する好感度・信頼度

—日本への信頼度は中国と韓国で20%以下。

次に日本に対する好感度や信頼感を見てみよう。まず、日本に対する好感層(「とても好感が持てる」と「やや好感が持てる」の合計)はタイで最も高く90.8%、以下、アメリカ

図表7 日本のメディアに期待する報道内容

(%)

	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位
アメリカ	科学技術 80.1	国際協力、 平和維持活動 74.5	政治、経済、 外交政策 69.0	歴史と文化 68.7	生活様式、 食文化 63.5	観光 59.9	ファッション、 アニメ、音楽 38.8
イギリス	科学技術 66.5	国際協力、 平和維持活動 59.3	観光 55.7	歴史と文化 55.2	政治、経済、 外交政策	生活様式、 食文化 51.7	ファッション、 アニメ、音楽 32.2
フランス	科学技術 77.5	歴史と文化 76.2	生活様式、 食文化 75.3	国際協力、 平和維持活動 71.1	観光 70.4	政治、経済、 外交政策 64.6	ファッション、 アニメ、音楽 48.1
中国	科学技術 78.2	ファッション、 アニメ、音楽 69.2	生活様式、 食文化 65.2	観光 64.7	政治、経済、 外交政策 54.3	歴史と文化 53.6	国際協力、 平和維持活動 30.1
韓国	科学技術 79.4	国際協力、 平和維持活動 68.7	生活様式、 食文化 66.8	観光 60.3	歴史と文化 59.4	生活様式、 食文化 56.4	ファッション、 アニメ、音楽 40.7
タイ	観光 88.9	科学技術	生活様式、 食文化 84.1	歴史と文化 82.5	国際協力、 平和維持活動 80.4	政治、経済、 外交政策 79.0	ファッション、 アニメ、音楽 66.7

図表8 日本でしたいこと(複数回答)

(%)

	1位	2位	3位	4位	5位
アメリカ	京都など日本の文化と 歴史のある街を観光する 52.1	日本食を食べる 34.5	買い物をする 24.8	温泉に入る 24.1	ポップカルチャーに 触れる 19.6
イギリス	京都など日本の文化と 歴史のある街を観光する 79.2	日本食を食べる 69.7	温泉に入る 61.0	買い物をする 60.5	ポップカルチャーに 触れる 32.1
フランス	京都など日本の文化と 歴史のある街を観光する 87.4	日本食を食べる 77.5	温泉に入る 77.1	買い物をする 56.0	ポップカルチャーに 触れる 37.6
中国	京都など日本の文化と 歴史のある街を観光する	日本食を食べる 68.3	温泉に入る 54.5	買い物をする 52.8	ポップカルチャーに 触れる 26.5
韓国	温泉に入る 49.6	日本食を食べる 35.2	京都など日本の文化と 歴史のある街を観光する 34.9	ポップカルチャーに 触れる 27.9	ポップカルチャーに 触れる 21.8
タイ	京都など日本の文化と 歴史のある街を観光する 79.8	日本食を食べる 77.8	温泉に入る 62.9	買い物をする 62.0	ポップカルチャーに 触れる 52.6

図表9 各国間の好感度－「好感が持てる」と答えた人の比率（％）

		1位	2位	3位	対 象 国				前回調査
		日本	アメリカ	イギリス	フランス	中国	韓国	タイ	日本
実 施 国	アメリカ	78.6	*	85.7	81.0	42.1	39.5	57.7	74.3
	イギリス	69.7	79.4	*	80.2	49.6	30.5	62.5	65.9
	フランス	73.2	76.0	79.8	*	44.5	49.8	59.7	76.3
	中国	27.8	57.5	82.6	82.3	*	74.8	61.9	*
	韓国	32.3	79.8	71.3	70.1	55.6	*	48.3	29.5
	タイ	90.8	79.4	85.6	76.2	51.5	66.8	*	94.1

(78.6%)、フランス(73.2%)、イギリス(69.7%)と続き、大きく離されて韓国で32.3%、中国で27.8%となっている。日本を除いた5カ国間の相互関係を見ると、欧米3カ国の好感度は相互に高いが、中国はイギリス・フランス・韓国・タイ・アメリカの順に、韓国はアメリカ・イギリス・フランス・中国の順に、タイは日本・イギリス・アメリカ・フランス・韓国・中国の順に50%以上の好感度となっている。こうして見ると、中国と韓国における日本への好感度の低さが際立っている(図表9)。

日本への信頼度は好感度と同様の傾向で、両者の相関関係は非常に強い。具体的には、信頼層(「とても信頼できる」と「やや信頼できる」の合計)はタイが92.5%で最も高く、アメリカ・イギリス・フランスでは70%台半ば、中国と韓国はともに大きく離れた10%台後半であった。中国と韓国での日本に対する積極的信頼層(「とても信頼できる」)は1.9%~2.8%に過ぎない(図表10)。

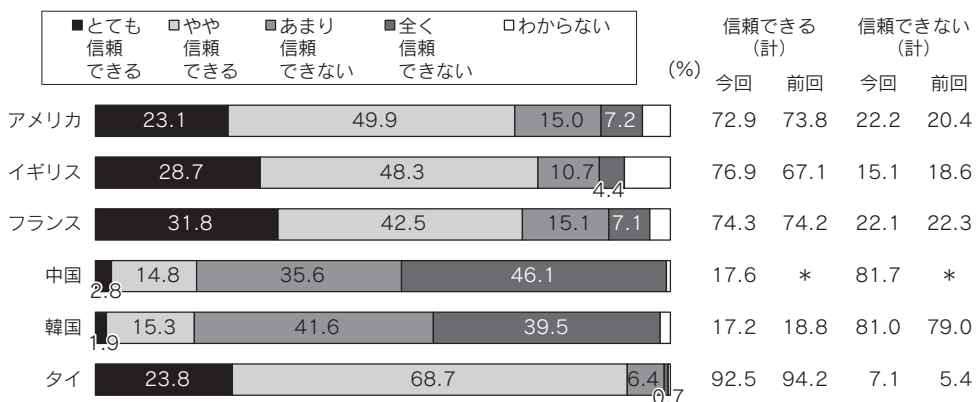
6. 日本と聞いて思い浮かべること

一 米中韓は「戦争」に関する事項が多い。

当調査では、最後の質問として「日本と聞いて思い浮かべること」を1つだけ挙げてもらった。これは、各国の調査対象者が答えた事柄をそのまま現地言語で入力し、1つずつ翻訳~整理分類した。昨年も同様の試みで「知っている日本人」を1名だけ挙げてもらったが、今回は昨年以上に調査各国の相違が際立つ結果となった(注:前年結果については「中央調査報2015年9月号(No.695)」参照)。

具体的な結果を見ると、アメリカは「第二次世界大戦、原爆、真珠湾」、イギリス・タイは「日本食、寿司など」、フランスは「文化、文明、伝統、芸術」、中国は「抗日戦争、中国侵略」、韓国は「嫌い、不快、不信」が1位に挙げられた。総じて、欧米3カ国は「日本食」「文化」「科学技術」、中国と韓国は近代の歴史にまつわる事柄、タイは観光に関連する事柄が上位になっている。なお、韓国では人としての感情に関する言葉が目

図表10 日本の信頼度



立つ。昨年聞いた「知っている日本人」の回答率も、日本国としてのイメージは形成されているということであろう（図表11）。
率は最大でも50%台であったが、今回は全6カ国で90%前後と高い。人名は思い浮かばなくて

図表 11 日本と聞いて思い浮かべること（各国上位 10 位） ※各欄右端の数字はその事柄を挙げた人の数

アメリカ (回答者 887 人)		イギリス (回答者 921 人)		フランス (回答者 891 人)	
第二次世界大戦、原爆、真珠湾	143	日本食、寿司、生魚	93	文化、文明、伝統、芸術	120
文化、歴史	78	国、島国	86	日本食、寿司、料理	117
日本食、寿司	76	車、バイク、そのメーカー	78	科学技術	56
科学技術	54	科学技術	49	原発、事故、災害、津波、福島	50
国、外国、島国	45	戦争、第二次世界大戦、	46	漫画、アニメ	44
友人、友好的	22	国旗	44	相撲、柔道、武道、空手	26
車、車のメーカー	21	日本人、人々	44	旅行	24
製造業、製品	20	電化製品（製品やメーカー含む）	31	富士山	19
人々、日本人	20	東京	30	侍、刀	18
美しい	19	東の国、東洋、アジア	29	桜	15
		津波、地震、原発事故・被害	29		

中国 (回答者 994 人)		韓国 (回答者 892 人)		タイ (回答者 1000 人)	
抗日戦争、中国侵略	202	嫌い、不快、不信	221	日本食、寿司、刺身、ラーメン	236
南京大虐殺	100	侵略、36年間の日本支配	159	富士山	178
桜	67	慰安婦	157	桜	170
ハイテク、先進的な技術	59	歴史認識、曲解	57	雪	66
アニメ、漫画	58	マナーが良い、公的秩序、親切	52	東京	36
日本食、寿司	39	隣国、近い	28	着物	32
富士山	34	独島問題	25	温泉	26
魚釣島問題	26	地震、放射能、原発事故、福島	21	火山	17
軍国主義	25	安倍晋三	15	車、車メーカー	16
電気製品	24	日本食	12	観光	16
				津波、地震、原発	16

調査の概要

●調査国と調査日程、調査方法、調査会社、調査地域

調査国	調査日程	調査方法	調査会社	調査地域
アメリカ	1月13日～17日	電話調査	SSRS	全国
イギリス	1月15日～17日	電話調査	TNS	全国
フランス	1月18日～23日	電話調査	CSA	全国
中国	2月1日～5日	面接調査	CRCリサーチセンター	北京、上海、広州、瀋陽、西安、成都、武漢、合肥、南京、青島
韓国	1月15日～19日	電話調査	Gallup Korea	全国
タイ	1月14日～31日	面接調査	IPSOS Thailand	バンコク、チェンマイ、ウドンターニー、ソンクラ

*電話調査では、複数回答の質問において、回答に偏りが出ないように、選択肢の読み上げ順をランダムにした。

■「第24回 人気スポーツ調査」結果の概要

中央調査社は、7月8日から18日にかけて、「人気スポーツに関する全国意識調査」を実施しました。調査は、無作為に選んだ全国20歳以上の男女個人を対象に個別面接聴取法で行いました(回答者数1,201人)。調査は、同テーマで1993年以来毎年行っています。

1. 最も好きなスポーツ選手

質問：「プロ・アマ、現役・引退、国内・国外を問わず、あなたが好きなスポーツ選手を1人だけ、何の選手かもあわせてあげてください。」(自由回答)

- 今年6月に日米通算最多安打記録を更新し、史上30人目のメジャー通算3000安打への期待がかかっていた「イチロー」が3年ぶりに1位となった。男性では圧倒的な人気で、女性でも2位。年代別ではすべての年代で1位となっている。
- 昨年1位だったプロテニス選手「錦織圭」が、2位となった。男女別で見ると、女性では1位、男性では2位、年代別で見ると、すべての年代で2位と幅広い人気となっている。
- 野球では、投手と打者の二刀流選手として活躍する「大谷翔平」が昨年の7位から今年は4位に上昇。「長嶋茂雄」が5位と変わらず人気を維持。
- フィギュアスケートでは、昨シーズンから現役復帰した「浅田真央」が引き続き3位に、昨シーズン世界歴代最高得点を記録した「羽生結弦」が6位にランクインしている。
- 相撲では、横綱「白鵬」が6位、綱取りが期待される大関「稀勢の里」が8位にランクインした。
- 体操の「内村航平」が9位、ゴルフの「松山英樹」が10位。

▼最も好きなスポーツ選手(上位15位)

		今回(2016年) (n=857)		2015年 (n=911)		2014年 (n=883)		2013年 (n=866)		2012年 (n=879)	
1位	イチロー (野球)	192人	22.4%	②	12.8%	②	15.1%	①	21.5%	①	19.6%
2位	錦織圭 (テニス)	145人	16.9%	①	18.4%	⑨	1.9%	⑨	1.8%	-	- %
3位	浅田真央 (フィギュアスケート)	44人	5.1%	③	7.7%	①	15.7%	③	5.7%	⑦	2.7%
4位	大谷翔平 (野球)	30人	3.5%	⑦	2.6%	⑳	0.8%	⑰	0.9%	-	- %
5位	長嶋茂雄 (野球)	28人	3.3%	⑤	3.8%	⑥	3.7%	④	4.5%	⑧	2.4%
6位	羽生結弦 (フィギュアスケート)	17人	2.0%	④	4.2%	④	4.3%	-	- %	-	- %
〃	白鵬 (相撲)	17人	2.0%	⑬	1.0%	⑰	1.0%	⑩	1.6%	⑤	3.5%
8位	稀勢の里 (相撲)	16人	1.9%	-	- %	-	- %	⑱	0.9%	⑬	1.1%
9位	内村航平 (体操)	15人	1.8%	⑳	0.8%	-	- %	⑱	0.9%	-	- %
10位	松山英樹 (ゴルフ)	14人	1.6%	⑩	1.9%	⑯	1.1%	-	- %	-	- %

(注) -は上位21位以下、○数字は順位。

▼男女別順位(上位10位)

男性 (n=417)				女性 (n=440)			
1位	イチロー	109人	26.1%	1位	錦織圭	99人	22.5%
2位	錦織圭	46人	11.0%	2位	イチロー	83人	18.9%
3位	長嶋茂雄	24人	5.8%	3位	浅田真央	40人	9.1%
4位	大谷翔平	16人	3.8%	4位	羽生結弦	17人	3.9%
5位	松山英樹	10人	2.4%	5位	大谷翔平	14人	3.2%
6位	稀勢の里	9人	2.2%	6位	内村航平	11人	2.5%
7位	王貞治	8人	1.9%	7位	白鵬	10人	2.3%
〃	山田哲人	8人	1.9%	8位	稀勢の里	7人	1.6%
9位	メッシ	7人	1.7%	9位	本田圭佑	6人	1.4%
〃	松井秀喜	7人	1.7%	10位	金本知憲	5人	1.1%
〃	白鵬	7人	1.7%	〃	王貞治	5人	1.1%
				〃	坂本勇人	5人	1.1%

▼年代別順位(上位5位)

20代 (n=75)				30代 (n=129)				40代 (n=162)			
1位	イチロー	15人	20.0%	1位	イチロー	33人	25.6%	1位	イチロー	39人	24.1%
2位	錦織圭	14人	18.7%	2位	錦織圭	28人	21.7%	2位	錦織圭	30人	18.5%
3位	浅田真央	5人	6.7%	3位	浅田真央	7人	5.4%	3位	浅田真央	9人	5.6%
4位	大谷翔平	3人	4.0%	4位	大谷翔平	5人	3.9%	4位	内村航平	6人	3.7%
〃	羽生結弦	3人	4.0%	5位	羽生結弦	4人	3.1%	5位	大谷翔平	5人	3.1%
〃								〃	松井秀喜	5人	3.1%

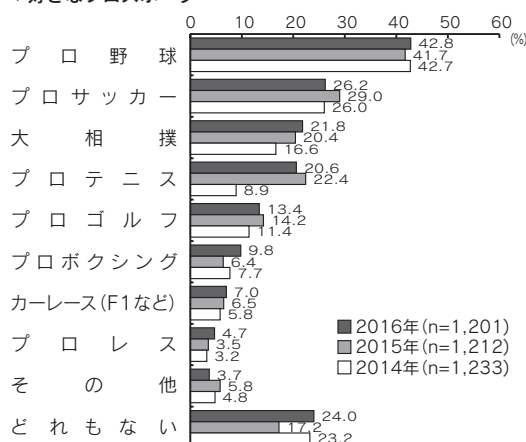
50代 (n=133)				60代 (n=158)				70歳以上 (n=200)			
1位	イチロー	29人	21.8%	1位	イチロー	36人	22.8%	1位	イチロー	40人	20.0%
2位	錦織圭	22人	16.5%	2位	錦織圭	24人	15.2%	2位	錦織圭	27人	13.5%
3位	浅田真央	5人	3.8%	3位	長嶋茂雄	13人	8.2%	3位	浅田真央	13人	6.5%
4位	大谷翔平	4人	3.0%	4位	大谷翔平	7人	4.4%	4位	長嶋茂雄	10人	5.0%
〃	長嶋茂雄	4人	3.0%	5位	浅田真央	5人	3.2%	5位	稀勢の里	7人	3.5%
				〃	白鵬	5人	3.2%	〃	白鵬	7人	3.5%
				〃	松山英樹	5人	3.2%				
				〃	稀勢の里	5人	3.2%				

2. 好きなプロスポーツ

質問：「あなたが好きなプロスポーツを、この中(回答票=(ア)大相撲、(イ)プロ野球、(ウ)プロサッカー、(ロ)プロゴルフ、(オ)プロレス、(カ)プロボクシング、(キ)カーレース〔F1など〕からいくつでもあげてください。」(複数回答)

- ・「プロ野球」が1996年から不動の1位。「プロサッカー」は6年連続2位となっているが、昨年に比べ3ポイント低下。
- ・「大相撲」が、昨年急上昇した「プロテニス」を僅かにかわし、3位に。

▼好きなプロスポーツ



3. 好きな現役力士

質問：「あなたが好きな現役の力士を3人まであげてください。」(自由回答、複数回答)

- ・横綱「白鵬」が、9年連続で力士ナンバー1。綱取りの期待がかかる大関「稀勢の里」が2位、今年初場所で初優勝を飾った大関「琴奨菊」が3位に、それぞれ順位を上げた。

▼好きな現役力士(上位10位)

	今回 (2012年) (n=1,204)	2015年 (n=1,212)	2014年 (n=1,233)	2013年 (n=1,204)	2012年 (n=1,272)
1位	白鵬 25.8%	① 27.8%	① 33.1%	① 32.6%	① 32.7%
2位	稀勢の里 19.1%	③ 10.6%	④ 8.7%	② 15.0%	② 12.6%
3位	琴奨菊 14.9%	⑧ 4.1%	⑦ 3.5%	⑤ 4.8%	③ 8.6%
4位	遠藤 9.4%	② 16.3%	② 22.3%	— —	— —
5位	日馬富士 6.9%	④ 7.5%	③ 9.1%	③ 7.9%	⑦ 3.6%
6位	豪栄道 4.1%	⑦ 5.1%	⑥ 3.6%	⑥ 2.4%	⑬ 0.9%
7位	鶴竜 3.2%	⑩ 2.6%	⑤ 6.7%	⑪ 1.0%	⑧ 2.8%
8位	琴勇輝 2.5%	— —	— —	— —	— —
9位	御嶽海 2.2%	— —	— —	— —	— —
10位	照ノ富士 2.0%	⑤ 7.3%	— —	— —	— —
1人も浮かばない	50.5%	49.9%	49.5%	55.0%	52.3%

(注) —は16位以下、○数字は順位。

(調査の設計・方法など)

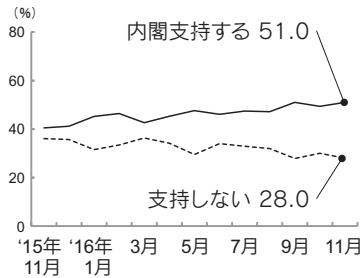
- 調査地域：全国
- 調査対象：20歳以上の男女個人
- 標本数：4,000
- 抽出方法：層化三段無作為抽出法
- 調査方法：調査員による個別面接聴取法
- 調査時期：2016年7月8日(金)～18日(月)
- 有効回収数：1,201

◇ 告 知 板

11月の時事世論調査

11月の時事世論調査によると、安倍内閣の支持率は前月比1.6ポイント増の51.0%で、再び5割を超えた。不支持率は前月比2.0ポイント減の28.0%だった。

調査は全国の18歳以上の男女2,000人を対象に、個別面接聴取法で11月10日から13日に実施。有効回収(率)は1,239(62.0%)。



この時期の国内の動きは、

東京都内で大規模停電：東京都内で12日午後、大規模な停電が発生。都心部を含む約58万6千戸が一時停電し、鉄道運転の見合わせや信号機が機能しないなどの影響が出た。埼玉県新座市の東京電力施設内のケーブル火災が原因とみられる(10月12日)。

「自由党」に党名変更：「生活の党と山本太郎となかまたち」は党議員総会で党名を「自由党」に変えることを決め、総務省に届け出て受理された。小沢一郎共同代表ら幹部は留任する見通し(10月12日)。

鳥取県中部で震度6弱：震度6弱を観測したのは倉吉市と湯梨浜町、北栄町で、マグニチュードは推定6.6。建物の倒壊や損壊がみられ、避難所が開設された(10月21日)。

衆院補選、自民2議席守る：東京10区は自民党前職の若狭勝氏、自民分裂選挙となった福岡6区は新人の鳩山二郎氏(選挙後に自民党追加公認)が当選した(10月23日)。

日比首脳会談：安倍首相は来日したドゥテルテ大統領と会談し、フィリピンと中国が領有権

を争う南シナ海問題について、法の支配に基づく平和的解決の重要性を確認した(10月26日)。

津波訴訟、学校側に過失：東日本大震災の津波で犠牲になった宮城県石巻市立大川小学校の児童74人のうちの23人の遺族が、市と県に計23億円の損害賠償を求めた訴訟は、仙台地裁が学校側の過失を認めて市と県に計約14億2600万円の支払いを命じた(10月26日)。

三笠宮さま逝去：昭和天皇の末弟で天皇陛下の叔父、三笠宮崇仁さまが心不全のため100歳で亡くなられた(10月27日)。

大西さんが地球に帰還：国際宇宙ステーションに約4カ月間滞在した大西卓哉さんが、米露の飛行士2人と共にロシアのソユーズ宇宙船でカザフスタン中央部の草原に無事帰還(10月30日)。

スー・チャー氏が来日：安倍首相は来日したミャンマーのアウン・サン・スー・チャー国家顧問兼外相と会談し、5年間で8000億円規模の官民支援を伝えた(11月3日)。

参院選の一票格差訴訟：いわゆる1票の格差が最大3.08倍だった7月の参院選は投票価値の平等に反し違憲として、弁護士グループが選挙無効を求めた訴訟は、10月14日から11月8日までに全国の高裁・支部で16件の判決が出された。「違憲状態」が10件、「合憲」は6件で、原告側は上告。最高裁が来春以降に統一判断を示す見通し(11月8日)。

パリ協定批准：地球温暖化対策の新枠組みである「パリ協定」の承認案が衆院本会議で可決され、政府はただちに批准を閣議決定した。日本は出遅れたかたちで、103番目の批准国(11月8日)。

国外では、

ノーベル文学賞にディラン氏：2016年ノーベル文学賞に米国のシンガー・ソングライター、ボブ・ディランさんが決まる。歌手の同賞受賞は初めて(10月13日)。

中国が有人宇宙船打ち上げ：

中国の有人宇宙船・神舟11号が打ち上げられ、予定の軌道に乗せることに成功した。先に打ち上げられた実験室・天宮2号とドッキングし、2人の宇宙飛行士が乗り移って約1か月滞在する予定(10月17日)。

米大統領選トランプ氏勝利：米大統領選の一般有権者投票が行われ、共和党の実業家ドナルド・トランプ氏が事前の予想を覆し、民主党のヒラリー・クリントン前国務長官を接戦の末、破った(11月8日)。

政党支持率 自民党は前月比1.3ポイント減の25.8%だった。民進党は0.1ポイント増の5.9%、公明党は0.2ポイント減の3.7%、共産党は0.2ポイント増の1.6%、日本維新の会は変わらず1.4%。支持政党なしは59.3%で前月より1.0ポイント増。

政党支持率 (上段:11月、下段:10月)

自民	公明	日本維新の会	社民	自由	その他	支持政党なし
25.8	5.9	3.7	1.6	1.4	0.7	0.2
27.1	5.8	3.9	1.4	1.4	0.4	0.2
59.3						58.3

国民の景気感 「良くなった」は前月より0.1ポイント増の5.4%、「悪くなった」は2.0ポイント増で26.2%。時事世論景気指数は前月比3ポイント減の115となった。

時事世論景気指数

2008年	09年	10年	11年	12年	13年	14年	15年
42.0	61.0	96.8	84.1	97.2	143.8	129.1	126.0
15年(10月)	123	130	129	16年(1月)	132	111	120
(4月)	112	115	121	125	126	122	118
(5月)							115

暮らし向き 昨年の中頃と比べて「楽になった」は前月比0.6ポイント増の5.7%、「苦しくなった」は3.3ポイント減少して21.6%となった。